

2002 年度卒業論文

**トルコにおける宗教教育
—公教育の宗教科目—**

東京外国語大学 外国語学部

南・西アジア課程

トルコ語専攻

8599121 田島綾子

目次

序論

第1章 宗教教育の変遷と政治

第1節 共和国成立から複数政党制移行まで（1923年から1946年）

第2節 複数政党時代から1982年憲法まで（1946年から1982年）

第3節 1982年憲法から現在（1982年から）

第2章「宗教文化と道徳知識」教科書

第1節 国民教育省の方針

第2節 教科書の内容

第3節 「宗教文化と道徳知識」の内容傾向

結論

資料 教科書の目次

序論

トルコは 1923 年に共和国となって以来、世俗主義を国是としている。歴史の中でイスラーム世界の中心的存在となりながら、今日、中東、イスラーム世界において西洋を目指し、ムスリムが大半を占める国で世俗主義政策をいち早く採用した。この点でトルコは、イスラーム世界でも特殊な国家といえる。世俗主義を進める国家と、伝統や信仰との間で、イスラームをどのように扱ってゆくかが興味深い国である。

現在施行されているトルコ共和国の憲法には、公立学校で宗教科目を必修科目とすることが明記されている。世俗主義を建国以来の国是とする国家が、憲法という最高法で宗教科目を必修化しているのは一見矛盾しているようにも見える。しかしながら、トルコという特殊な国家のなかで生まれた、宗教と国家の関わり方のひとつの形であるとも取れる。

本稿では、宗教教育を通じ、国家が宗教をどうとらえているのか、国民と国家はどのように宗教と関わろうと考えているのかを明らかにしていきたい。

まず第 1 章で、歴史的に宗教科目がどのように行われてきたかを概観し、国家、政治との関わりを明らかにする。第 2 章では、2002 年度の宗教科目の具体的な内容について明らかにし、国家が宗教をどのようにとらえているかを明らかにしていく。

本稿で対象にするのは、義務教育期間の公立学校の宗教科目である。トルコでは、ごく一部の裕福な家庭の子供しか私立学校へ通わない。義務教育期間の公立学校は、トルコ国民の大多数が通過するという点で、特に国家の国民教育の方針が現われやすいといえる。

現在、トルコにおいて義務教育期間は小中一貫の 8 年間であるが、1997 年の教育制度改革以前は義務教育は 5 年間であった。現在の義務教育に関して論じていきたいため、1997 年まで義務教育に組み込まれない 3 年間も、第 1 章では扱っていく。

資料としては、実際に学校で使用されている教科書を参照した。これは「Din kültürü ve Ahlâk bilgisi」（「宗教文化と倫理教育」）の、初等教育 8 年間の 4 年生から 8 年生の 5 年間の教科書で、国民教育省出版が 2002 年度に出版した教科書である。

用語としては、現在の初等課程 8 年のうち、1997 年の教育制度改革以前の場合、最初の 5 年を「小学校」、次の 3 年を「中学校」とした。1997 年以降の場合、「初等課程」という用語を使うこととした。以上の点を踏まえ、本稿を進めていきたい。

第1章 宗教教育の変遷と政治

政治に宗教が介入し、それが破られまた世俗主義が徹底されるといった微妙なせめぎあいの中で、国家は様々な宗教政策を取ってきた。その一環として、国家の将来を担う子供たちに、義務教育という避け難い期間の中で、どのような宗教教育を行うかも、政策の大きな現われであったといえる。

この章では、共和国成立から現在まで、公立小・中学校の宗教教育に政治がどう関わってきたのかをまとめていこうと思う。現在、トルコの初等教育は「初等課程」と呼ばれる8年制をとっている。1997年までは、このうちの最初の5年が「小学校」、後の3年が「中学校¹」と呼ばれていた²。ここより、「小学校」といった場合は5年、「中学校」といった場合は3年という前提で話を進めていく。また、「初等課程」の6年生から8年生は、旧「中学校」にあたるということも注記しておく。

第1節 共和国成立から複数政党制移行まで（1923年から1946年）

トルコは、共和国成立から第二次世界大戦後の1946年まで、一党独裁制をとっていた。この期間、国家は世俗化を積極的におしすすめた。宗教科目がこの間、どのように行われてきたかを見ていこうと思う。

1924年3月、政府は「教育統一法」を制定してメドレセを廃止、すべての教育機関を国民教育省（Milli Eğitim Bakanlığı）の管轄とした。そして同年、小学校に宗教科目を設置した。「コーラン（Ku’ran-ı kerim）」と「宗教（Din Dersleri）」と呼ばれる授業で、2年生から5年生までの学年で週2時限ずつ行われた³。中学校では週1時限で宗教科目が行われていた⁴。イスラーム帝国であったオスマン帝国がトルコ共和国になって間もないこの頃は、世俗化といえども日常生活までは支配せず⁵、したがって学校内で宗教科目を教えることに対する制限なども見受けられない。しかしそれも長くはなく、1925年ごろからは神秘主義教団の修行場や聖者廟の廃止⁶など、日常生活の中でのイスラームを排除するようになった。

¹ 中学校が義務教育となるのは1997年以降である。

² Aydın 2000 p.34

³ Aydın 2000 p.34

⁴ Aydın 2000 p.39

⁵ 1924年にはカリフ制、イスラーム法裁判所の廃止を始め、政治レベルでの世俗化は積極的に行われていた。

⁶ 神秘主義教団の修行場や聖者廟は、オスマン帝国、あるいはそれ以前から人々の宗教生活の

そしてちょうどこの頃、1926年に、小学校の宗教科目の開始学年が1年上がり、さらに授業数が減ることになった⁷。つまり、3年生以上の学年で週1時限ずつ行われるという形をとった。一方中学校では、1927年に、カリキュラムの中から宗教、道徳に関する授業が消えた。このまま中学校では、宗教に関する科目が開講されない状態が1957年まで続くことになる⁸。中学校から宗教科目が消えた翌年の1928年、トルコは国教としてのイスラームを廃止し、算用数字やラテン文字を取り入れている。1930年秋には、国民教育省は、新しいカリキュラムである「初等学校カリキュラム (İlk Mektep Müfredatı)」を発行した。これは翌年の31年から施行されたが、この年以降、小学校でもカリキュラムから宗教科目が消えることになった。ただし両親の申請があった生徒には、5年生時に課外授業として、2分の1時限の授業が行われることになった。小学校ではこの状態が1949年まで続くことになる⁹。このようにして、国家の世俗化へ向けた動きの中で、宗教科目は減少し、ついには消えていったのであった。1937年にはトルコは憲法の中に世俗国家であることを明文化することになる。そしてその後も、1945年まで、アタテュルクの理念を継ぐ共和人民党による一党独裁政治と世俗化政策は続いていった。

第2節 複数政党時代から1982年憲法まで（1946年から1982年）

第二次世界大戦が終結すると、世界的に民主主義を要求する声が高まってきた。これに伴いトルコでも複数政党制がとられ、直接選挙が行われるようになった。その頃、急激な世俗化に対する反発と、大戦によって起こったインフレ、さらにそれに追い討ちをかける形となった農産物税などの税制策の実施により、共和人民党は国民の人気を失いつつあった。複数政党制がとられ、選挙での得票争いになった時、各政党はイスラームを尊重した政策によって票を得ようとしたのである。それまで強い権力を持って世俗化をおしすすめてきた共和人民党も、政権を維持するために、世俗化政策の軟化を余儀なくされた。こうして、第二回総選挙の前年にあたる1949年になると、宗教科目を取り巻く状況は一変した。共和人民党の体制下で、小学校の4年生と5年生に、任意参加の課外授業として週2時限の宗教科目が開かれることになったのだった。この授業は進級には関係なく、また、参加

深い支えになっていた。新井、2000 p.202

⁷ Aydın 2000 p.34

⁸ Aydın 2000 p.39

⁹ Aydın 2000 p.35

を希望する場合、両親の申請が必要だった¹⁰。翌年の 1950 年、総選挙でアドナン・メンデルス率いる民主党が勝利すると、彼らは広範囲の支持を得るために親イスラーム政策を行った。宗教科目に関しては前年の共和人民党の政策を引き継ぐ形となったが、任意参加の参加形態はそのままに、宗教科目を課外授業からカリキュラム内へと組み込むことになった。また、それまでとは逆に、両親の申請によって参加を拒否できるという形をとり、基本的には生徒は全員参加という形になった¹¹。1956 年には、中学校 1、2 年生を対象に週 1 時限の「宗教知識 (Din Bilgisi)」の授業が行われることが決定した。この授業への参加は任意であり、参加を拒否したい場合は、小学校と同じように申請が必要だった¹²。

1960 年、民主党の独裁とイスラーム勢力の伸張に対して危機感を抱いた軍部がクーデターを起こし、民主党政権が終わりを告げた。1961 年には新憲法が制定され、新憲法体制下で総選挙が行われた。そして再び政権は共和人民党の手に戻ることになった。1965 年の総選挙ではスレイマン・デミレル率いる公正党が政権を握ったが、社会の混乱を収拾できず、1971 年に軍部から送られた書簡による警告を受けて総辞職となった。その後も、70 年代は、10 年間に 11 回も政権交代が行われているという政局混迷の時代であった。1973 年 6 月 14 日、国民教育省は「国民教育基本法 (Milli Eğitim Temel Kanunu)」を発行した。これにより¹³、小学校、中学校が正式に独立したと同時に、小学校 5 年間と中学校 3 年間を統合した 8 年制の「初等課程 (İlköğretim okulu)」が開設され始めた¹⁴。翌 1974 年には共和人民党とイスラーム政党である国民救済党が連立政権を組むことになる。同年開かれた第九回国民教育評議会において、小学校と初等課程の 4・5 年生には必修科目として「道徳 (Ahlâk)」が、選択科目として「宗教知識 (Din Bilgisi)」が週 1 時限行われることになった¹⁵。中学校では 1、2 年生に、(初等課程ならば 6、7 年生に) 参加任意の宗教科目が週 1 時限開講されることになった。そしてこれ以降、中学校の全学年 (初等課程の 6 年生から 8 年生)

¹⁰教師にとっても、この科目を教えることは義務ではなかったという。Aydın 2000 p.51

¹¹Aydın 2000 p.52

¹²Aydın 2000 p.65

¹³国民教育基本法 第 24 条

「初等教育の 5 年間が第一段階、3 年間を第二段階であると、教育協会は明らかにする。第一段階の終わりには小学校の、第二段階の終わりには初等教育 (中学校) の卒業証が与えられる。」第 25 条

「初等教育協会は、第一段階と第二段階にそれぞれ独立した学校を設立した一方で、能力や条件によっては一貫制の学校も設立しうる。」Aydın 2000 p.51

¹⁴Aydın 2000 p.51

¹⁵Aydın 2000 p.53

に週 1 時限の必修の道德科目が開講され、3 年生（初等課程の 8 年生）には参加任意の「宗教知識（Din bilgisi）」という授業が週 1 時限開講されることになった¹⁶。

1980 年、世俗主義批判を強く主張する国民救済党党首のネジメッティン・エルバカンがコンヤで集会、デモを行ったことをきっかけに、軍部はクーデターを起こした。こうして再びトルコは軍事政権の下に置かれることになった。

第 3 節 1982 年憲法から現在（1982 年から）

1982 年にはクーデターを受け、軍事政権の下で新憲法が制定された。クーデター後の軍事政権では、「トルコ・イスラーム総合論」と呼ばれる方針が採用された。これは 1970 年にイスタンブール大学の民族主義的な教官たちを中心に作られた「知識人の炉辺」の初代会長、イブラーヒーム・カフェスオールが説いたものである。トルコ人をトルコ語を話すムスリムととらえ、トルコ民族やナショナリズムを支えるものとしてイスラームが強調された。また、家族生活、道德の重要性も強調された¹⁷。軍部は左翼排除のためと、70 年代の社会の混乱を統合するための基盤とするため、クーデター以後の政権でこの方針を採用することになった¹⁸。こうしてトルコの基礎としてのイスラームが強調されるなかでの新憲法制定となった。新憲法には、宗教教育についての記述もあった。

「宗教と倫理の教育及び授業は、国家の管理、監査の下で行われる。宗教文化と倫理教育は初等、中等教育協会で教えられている必修科目の中に設ける¹⁹。」

宗教と道德の授業を行うことが、小、中学校（初等課程）で必修として規定されたのだった。「トルコ・イスラーム総合論」の影響だといえるだろう。

こうして、「宗教文化と道德知識」という授業が、週 2 時限ずつ必修授業として、小学校 4 年生以上の学年に行われることになった²⁰。また、中学校でも任意参加の「宗教文化」と必修の「道德知識」が統合され、「宗教文化と道德知識」という名で、全学年で（初等課程では 6 年生以上の学年で）週 2 時限開かれることになった²¹。1983 年にはクーデター後の軍事政権から祖国党へと政権が移るが、これは直接宗教科目へは影響していないようで

¹⁶ Aydın 2000 p.65

¹⁷ 新井 2001 p.292

¹⁸ www.minpaku.ac.jp/htdocs2/jcas/islam_studies/1999/01_06.html

¹⁹ 1982 Anayasası Madde 24. Aydın 2000 p.117

²⁰ Aydın 2000 p.117

²¹ Aydın 2000 p.124

ある²²。1982 年憲法が硬性憲法であり、宗教科目に関する条項がその中で定められている以上、政権をとる者によっては動かしがたいものとなったからであると考えられる。

1996 年になると、祖国党と福祉党の連立内閣が発足した。福祉党は前述のイスラーム政党、国民救済党の後身である。この福祉党党首であるネジメッティン・エルバカンはイスラーム政党党首として始めて首相の座に就くが、翌年にはイスラーム政策に反対する軍部によって辞任に追い込まれることになる。こうして世俗派が再び巻き返す中で、1997 年に教育制度の改革が行われ、中学校が義務教育に組み込まれることになった。この年から、「小学校」「中学校」は廃止され、8 年間の「初等課程」が義務教育として位置づけられることになった。これに伴い宗教科目も統合し、初等課程 4 年生から 8 年生までの学年で週 2 時限、「宗教文化と道徳知識」という名の授業が必修科目として開講されることになった。そしてこれは現在までも続けられている。

こうして見ると、その時々政治体制によって、宗教科目も大きく影響を受けていることがうかがえる。一党独裁の世俗化政策による宗教科目の減少、廃止に始まり、複数政党制移行に伴う選挙戦のための宗教科目の復活、イスラーム政党政権による保護、そして憲法での規定と、その時の政治体制を如実に反映している（表 1 参照）。特に、クーデターを受けて憲法内で宗教科目について規定された 1982 年以降の宗教科目は、国民に、イスラームとどのように関わって欲しいのかを強く定めたいということのように思われる。

次章では、実際に教育の場で使用されている教科書を見て、国家の求めるイスラームを分析していきたいと思う。

²² 祖国党党首トゥルグット・オザルはナクシベンディー教団のメンバーといわれ、1987 年には首相として初めてメッカ巡礼を行うなど、親イスラーム的性格を持っている。祖国党は数々の親イスラーム政策を行ったが、義務教育の宗教科目に関して、直接の影響はないと思われる。

表 1

年	小学校	中学校	政治、国家の動き
1923			トルコ共和国成立
1924	コーランと宗教の授業が小学校で行われる。2年生以上、週2時限。	宗教の授業が行われる。週1時限。	カリフ制廃止、イスラーム法裁判所廃止。
1925			西暦の採用
1926	コーランと宗教の授業の開始学年が3年生からとなる。週1時限。		スイス型民法、ドイツ型商法、イタリア型刑法採択。
1927		宗教科目がなくなる。	
1928			国教としてのイスラーム廃止。ラテン文字、算用数字採用。
1930	国民教育省、「初等学校カリキュラム」発行。宗教科目がなくなる。		
1937			憲法改正により、世俗化宣言。
1938			アタチュルク逝去。 イスメット・イノニユ、第2代大統領となる。
1939			第二次世界大戦始まる。
1946			一党独裁から多党制へ移行。 民主党結成。 多党制下の第一回総選挙。
1949	4、5年生に課外選択授業としての宗教科目が開講される。親の申請のあった子供のみ受講。		共和人民党、総選挙へ向けて世俗化政策軟化。
1950	課外科目から課内科目へ。親の申請のあった子供のみ免除。		民主党政権成立。親イスラーム政策を行う。 第3代大統領に、ジェラルム・バヤル、首相にアドナン・メンデレス。
1956		「宗教知識」開講。週1時限。 申請のあった生徒のみ免除。	
1960			民主党独裁化に反対し、学生デモが起きる。 軍事クーデターでメンデレス政権崩壊。軍事政権の成立。
1961			新憲法制定
1965			公正党政権成立。
1971			「書簡によるクーデター」で公正党政権崩壊。
1973	「国民教育基本法」制定。8年制の「初等課程」が開校され始める。		
1974	4、5年生に選択科目として宗教科目開講。週1時限。	1、2年生（初等課程6、7年生）に選択科目として宗教科目が開講。週1時限。	共和民主党、国民救済党連立政権。
1980			国民救済党活動激化によるクーデター。軍政が敷かれる。
1982	「宗教文化と道徳知識」4、5年生に週2時限。	「宗教文化と道徳知識」全学年に週2時限。	1982年憲法成立
1983			祖国党内閣成立。
1996			祖国党、福祉党連立政権。エルバカン、初のイスラーム政党の首相となる。
1997	教育制度改革。義務教育が中学校修了まで引き上げられる。小学校・中学校廃止、初等課程へ。 初等課程4年生から8年生に「宗教文化と道徳知識」週2時限。		連立政権、軍部により退陣。

第2章「宗教文化と道德知識」教科書

本章では、2002年度（2002年9月開始）初等教育用「宗教文化と道德知識」教科書について論じていく。教科書は国民教育省出版のもの²³を使用する。

第1節 国民教育省の方針²⁴

初等課程の教育については国民教育省のあつかいである。国民教育省は2002年の頭に同年の教育方針を打ち出した。それによれば、宗教教育は「近代文化の建設的、創造的かつ最良の仲間としての人間の育成過程において」行われるとされている。また、具体的な宗教教育のビジョン、任務、基礎的な価値についても掲げている。

宗教教育のビジョン

文化的遺産の価値を高めることができ、生命について解釈することができ、問題解決ができる個人の育成。

宗教教育の任務

生徒たちの知性に、人間、思想、自由、道德、文化的遺産への敬意に基づいた宗教教育知識を増やしていくこと。その土台になるものとして、以下の項目を扱う。

- ・ 宗教的現象の差異の成立
- ・ 社会を完成させること
- ・ 団結と寛容
- ・ 文化的感覚
- ・ 倫理と正直さ
- ・ 自分自身の意味の発見、自分の頭で考えること
- ・ 批判的なものの考え方
- ・ 目的の存在
- ・ 判断力
- ・ 生命の意味の発見
- ・ 信仰への問いかけができること

²³ Komisyon 2002 .

- ・合理的なプロセス

宗教教育の基礎的な価値

- ・理性と学問に依拠した宗教理解が広がること
- ・宗教教育の適用において、テーマを分析的、解説的アプローチで身につけること
- ・宗教の完全性、平安を与え平和をもたらすものとしての力を明らかにすること
- ・概念の混乱や不確定さを排除し、学問的努力を生み出すこと
- ・しっかりとした宗教理解が、質の良い教育過程を経て得られること
- ・指導者、教師、生徒、保護者の関係のなかに、信頼が作りだされること
- ・考え、問いかけ、信仰を理性を持って完成させる生徒の育成に貢献する教育指導の、開発と適用ができること

国民教育省は、宗教教育を通して倫理観を持ち、社会とより良い関係を気づくことができる人間の育成を目指していることが読み取れる。同時に、「理性と学問に依拠した」宗教知識を高め、文化や伝統を理解する心の育成を目指している。学問としての宗教から、社会で生きていくためのより良い人格形成や人間関係の形成を目指していることが、この方針からは読み取れる。

実際にこの方針が出された 2002 年に出版された、初等課程「宗教文化と道徳知識」の 4 年生から 8 年生の教科書を検証していく。

第 2 節 教科書の内容²⁵

I. 全体の特徴

一冊あたり 120 ページ前後で構成されるこの教科書は、内容によって一冊ごとに 7 単元に分けられている。さらにその 1 単元のなかに 6 から 10 の見出しがあり、1 単元に 1、2 編の短い読み物が入ることもある。民間出版社の教科書²⁶と比較したところ、読み物以外の単元名、見出しは全学年で全く同じであった。国民教育省が規定していることがうかがえる。民間の出版社が出版する場合でも、読み物以外はすべて何を書くのか定められてい

²⁴ www.meb.gov.tr 2002 Yıl Başında Milli Eğitim による。

²⁵ 本項目は Komisyon 2002 4-8 による。

²⁶ Ahmet Ülkü Özden, Ömer Yılmaz 2002

ることになる。特に、見出しはほぼ1ページに1つの割合で設定されているので、かなり細かいところまで、国民教育省は定めているということである。

目次を眺めてみると、単元が5つに大別できる。宗教に関する知識を学習する単元、宗教に依拠した道徳を学習する単元、宗教に関わらずに道徳を学習する単元、国家や国民意識に関する単元、宗教の理性的なとらえ方を学習する単元である。5学年分全35単元のうち、宗教知識の単元は15と最も多く、次に多いのが宗教に依拠した道徳の単元で8つ。宗教の話題の出てこない単元は、道徳のみの単元が4、国家、国民意識の単元は2といずれも少数である。宗教の理性的なとらえ方を学習する単元は最上学年である8年生に集中しており、6つの単元がこれにあたる。しかし、これは単元の名前から判断したにすぎない。実際の内容について以下に述べていく。実際の単元名、見出し名は末尾資料を参照されたい。

II. 内容の特徴

i. 「宗教」のとらえ方

先述の通り、「宗教文化と道徳知識」科目で最も多く学習するのは宗教に関することであるが、そもそもこの科目では「宗教」をどのようにとらえているのであろうか。4年生の第1単元に「宗教の定義」「宗教を学ぶことの重要性」が書かれている²⁷。それによれば、「概念としての宗教：人々を正しく、良い方向へ導くために、アッラーによって送られた神聖な法則の全体。宗教の命令と忠告を人々へ届けるのは預言者である。預言者は、宗教の根本を人々に明らかにし、それらを適用して、人々の模範になる。²⁸」ということである。宗教を学ぶことの重要性の項目に関しては、宗教とは人間を幸せにするものだからよく学ばねばならないと記述されており、さらに「アタチュルクはこう言った。『私たちに聖職者はいない。すべての者が平等で、私たちの宗教の支配も平等であるということを学ばねばならない。すべての者は、宗教と、宗教に関すること、信仰について学ぶ場所が必要である。それが学校なのである。』²⁹」と、アタチュルクの言葉も引用されている。宗教を学ぶことは、幸せと、正しく良い生き方を学ぶことであると、教科書は教えているのである。

²⁷ Komisyon 2002 4 p.19

²⁸ Komisyon 2002 4 p.19

²⁹ Komisyon 2002 4 p.21

教科書の単元名や見出しの中で、「宗教」という言葉が使われる時、ほとんどの場合それはイスラームを指す。先ほどの例にも出たが、宗教の定義の中で「アッラー」「預言者」という書き方がされている。トルコ語には「神」をあらわす単語は数種類あるが、あえて「アッラー (Allâh)」というアラビア語起源の、イスラームにおける「神」を表す言葉を選んでいるうえに、「預言者」の存在を明記している。イスラーム以外の宗教には当てはまらない組み合わせと考えていいだろう。その他にも、例えば、4年生の第3単元に「私と宗教」という名前がついているが、内容は「宗教」と書いてイスラームを指している。この単元内には、イスラーム以外の宗教的表現は出てこない。また、単元内に「宗教は良く、正しく、美しい行動を求める」という見出しがあるが、その中で、「私たちの宗教は」という書き出しで、クルアーンの引用を載せている³⁰。

このように、「宗教文化と道徳知識」のなかでは、「宗教」という表現があったときイスラームを前提としており、さらに、そのイスラームを学ぶことは、幸せと、正しく良い生き方を学ぶことである、としているのである。

ii. 宗教知識と道徳

イスラームを前提とした宗教知識、またイスラームを前提とした宗教に依拠した道徳が、この科目では大半を占めている。その特徴を見ていこう。

宗教知識に関しては、やはり大半がイスラームに関する知識である。断食、礼拝、預言者ムハンマドの行動、クルアーンなどが学ばれる。礼拝のやり方が絵によって詳しく説明されていたり、巡礼（ハッジ Hac）に関わる地名をひとつひとつ紹介していたりと、比較的詳しく書かれている。その中に、例えば預言者ムハンマドの言行について学ぶ単元の中で、その言行の倫理的な側面を取りあげる、という形で道徳教育の様相を呈することも少なくない。したがって、「知識」のみを教える単元は少なく、第2節のIで大別したように、「宗教知識」と「宗教に依拠した道徳」の単元を明確に区分することは、単元名ではなく内容を見れば、非常に難しくなる。また、宗教から道徳を学ぶということが、時としてその宗教に対する称賛になるということも記しておきたい。

イスラーム以外の宗教に関する知識教育は、5年間で2単元しか用意されていない。ひ

³⁰ Komisyon 2002 4 pp.40-53

とつは7年生の第7単元で、イスラームを含めた世界の大規模な宗教³¹について触れている³²。それぞれの宗教に関して否定的な表現はないものの、それは概論にすぎず、そこから倫理的な側面を取りざたして道德教育を行うということもない。ふたつめは8年生の第7単元で、「宗教とイスラームの普遍的忠告」という名前がついている。この単元の中では、「正しいこと」「清潔であること」など8つのテーマのなかで、イスラーム、キリスト教、ユダヤ教、仏教、ヒンドゥー教の5つの宗教のそれぞれのとらえかたや教えを少しずつ挙げている。最終学年の最終単元ということで、総まとめとして設けられているのだと思われる。

宗教に関わらない道德教育の単元も、中を見ればイスラームによって説明されている。4年生の単元2「清潔にしておこう³³」を例にとってみよう。日常生活で体や衣服を清潔に保つことの大切さを学習する単元であるが、読み進めるうちに、4つめに、「健康のために清潔はとても大切である」という見出しが出てくる。一見宗教とは関係のないように見えるが、本文中では「私たちの預言者もこう言っている。『病気にかかる前に、健康の価値を知りなさい』。そして健康でいるためには、清潔にしておくことは重要なことである。」という記述がされている³⁴。この「私たちの預言者」とは預言者ムハンマドのことである。

このように、宗教の中から道德的側面を見出すだけでなく、道德教育のなかに宗教を持ち込んでその裏付けとするやり方でも、宗教教育に依拠した道德教育は行われている。先に挙げた健康と清潔に関する預言者ムハンマドの引用は、それなしにして健康の大切さを記すこともできるはずである。しかし、あえてイスラームの預言者ムハンマドを持ち出している、ということに注目したい。

また、特筆すべきは、いくつかの単元の終わりに、クルアーンの章句や、イスラームの祈りの言葉を暗記する項目が設けられていることである。これは5年間で14編に及ぶ。暗記するのはアラビア語の音で、意味をトルコ語で説明している。

iii. 単語の表現

表現のうえで注目したいのは、「私たちの預言者（Peygamberimiz）」、「私たちの宗教

³¹ Komisyon 2002 7 pp.107-116 キリスト教、イスラーム、ユダヤ教、仏教、ヒンドゥー教について述べられている。

³² Komisyon 2002 7 pp.105-122

³³ Komisyon 2002 4 p.29

³⁴ Komisyon 2002 4 p.33

(Dinimiz)」という言葉である。これは先に見てきた通り、イスラームを指して使われている。それ以外にも、この教科書内では一人称で書かれることが多い。最も顕著な例として、5年生の第1単元を挙げておく。この単元の名前は「私はアッラーを信じています」という³⁵。この「私」「私たち」というのは生徒たちを表現していると考えていいだろう。生徒がムスリムではない可能性を考慮に入れていない表現であるといえる。私たちの宗教は当然イスラームであり、私たちの預言者はムハンマド、私たちが信じているのはアッラー、という暗黙の了解がここにはあるようである。

また、「神」を意味する言葉としては「アッラー (Allâh)」と「神 (Tanrı)」が両方使われる。一般論としての神や、イスラーム以外の神をあらわすときは「神 (Tanrı)」を使用し、イスラームを含め、いわゆるセム系一神教と呼ばれるキリスト教、ユダヤ教の神について言及される場合は「アッラー (Allâh)」を使用している。神はひとつであり、預言者の違いによって区別されるという、これはきわめてイスラーム的なとらえ方であるといえる。

iv. 国家、国民意識

数は少ないながら、道徳教育の一貫として、国家や国民意識に関する単元もある。4年生の第6単元の一部³⁶と、6年生の第3単元³⁷である。4年生の方は「喜びと悲しみを分かち合う」として祝日（バイラム Bayram）について教えられている。宗教的な祝日と国民の祝日に分け、その日が祝われる理由や歴史を解説している。6年生の方は「祖国と国民を愛している」と題して、国家に対する義務やその意味、国旗や国家に対して敬意を払うことなどを学ぶ。

政教分離についての記述もここに大別されるだろう。これは、唯一イスラーム以外の宗教について書かれている単元、7年生の第7単元にある。政教分離は、信教の自由を保障するものであり、他者へ信仰を強制することを一切認めないものであり、国家と宗教を切り離すものであるということが書かれている³⁸が、そのような国家の宗教に対する方針を明らかにしつつ、この科目では同じ科目内で宗教について学習することになっているのである。

³⁵ Komisyon 2002 5 p.11

³⁶ Komisyon 2002 4 pp.85-92

³⁷ Komisyon 2002 6 pp.49-55

v. 宗教の理性的なとらえ方と国民教育省の方針

8年生の教科書には、イスラームや宗教というものを理性的にとらえようとする単元が見られる。特に、第6単元「宗教理解の差異³⁹」と第7単元「宗教とイスラームの普遍的忠告⁴⁰」がそれにあたる。イスラーム以外の宗教に対する理解と敬意を示し、優劣はないのだという考え方を学ぶため、環境や文化の違い、それによって起こる考え方の違いについて書かれている。また、第7単元は先述のとおり、さまざまな宗教の、ひとつのことに関する見解を並べることで、考え方の違いを学び、理解しようとしている。

全体の傾向として、学年が上がるに連れてイスラームという特定の宗教への信仰心やすばらしさの教育から、徐々に一般化し、一般的に宗教と呼ばれるものと、そこから読み取れる道徳心や、さまざまな信仰に対する敬意などを教えるようになる。学年が上がるにつれ、国民教育省のいう他者の理解や、理性で宗教を判断すること、文化を知ることなどが教えられるようになっていくのである。これは、自国の文化であるイスラームを理解したうえで、イスラーム以外の信仰について知り、理解し、分かり合おうという流れが、5年間で形成されているように思える。

第3節 「宗教文化と道徳知識」の内容傾向

この科目は、「宗教文化」と「道徳知識」の科目である。しかしながら、こと宗教に関しては「文化」を教育しているとはとても言えない内容となっている。

トルコは政教分離国家である。信仰の強制を認めず、自由を保証する、この科目の教科書の中にもその旨は書かれている⁴¹。しかし、実際にはまさにこの科目自身が、生徒たちにイスラームという特定の宗教を押し付けている形になっている。

まず、第2節 i で述べたように、教科書内で「宗教」という言葉が示すのはほとんどイスラームである、という前提がありながら、その「宗教」を学ぶことは、幸せと、正しく良い生き方を学ぶことである、としている。宗教科目が始まる4年生の最初に、まずこれを教えて、その後の宗教科目学習を意味付ける。数ある選択肢の中から、国が特定の宗教

³⁸ Komisyon 2002 7 pp.118-121

³⁹ Komisyon 2002 8 pp.86-94

⁴⁰ Komisyon 2002 7 pp.97-111

⁴¹ Komisyon 2002 7 pp.118-121

を選び、生徒に「よいもの」として与えることは、宗教の押し付けと言ってもいい。「宗教」を学ぶ重要さは、イスラームの価値のみではないはずである。

また、iiで述べたように、道徳教育単元にあえてイスラームの教えや観念を持ち出す傾向が強い。宗教的例示なしで説明することも可能であろうし、もしそれが必要なのであっても、ことごとくイスラームである必要はないはずである。文章の端々にクルアーンの章句や預言者ムハンマドの発言を持ち出せば、生徒たちは、イスラームのみが道徳と結びつく唯一のものであると思い込むこともあるだろう。そうなれば、国家による宗教の押し付けではないとは言いがたい。

さらに、単元の終わりに、クルアーンの章句や、イスラームの祈りの言葉を暗記する項目が設けられていることも重大なことである。すべてに共通して言えることだが、ムスリム以外の生徒はこの授業を受けたいとは思わないだろう。「私たちの宗教」「私たちの預言者」といった本文中の一人称が語るものが常にイスラームに関連しているというのも、ムスリムでない生徒は困惑するだろう。たとえムスリムであっても、イスラーム以外の宗教は「私たち」ではないという暗黙の圧迫が感じられ、信仰の自由など思いもつかなくなるのではないだろうか。この教科書で授業を行われたら、ムスリムでない生徒たちの宗教心は満たされないどころか、大きなストレスになるだろう。

トルコ人の95パーセントがイスラームのスニー派であるといわれている⁴²。教室内にムスリムでない生徒がいる可能性はきわめて低い。実際、トルコは長い歴史をイスラームとともに歩んできた。しかしながら、「世俗主義」を掲げ、信教の自由を保障している以上、「イスラームがあたりまえ」という考えでもって宗教教育をしては、信教の自由の保障にはならない。

⁴² www.jetro.org.tr/japan/1/1.htm

結論

歴史の中で、宗教科目は「学校の1科目」ではなく「政策」であった。常に政策の影響を受け、現れては消えの繰り返しであった。世俗主義を国是とするトルコにおいて、国民にどのように宗教を教えるか（あるいは、教えないか）はひとつの宗教政策であったのだ。

現在、公教育において宗教科目が必修となっているのは、憲法制定当時高まった「トルコ・イスラーム総合論」の影響で、イスラームをトルコのアイデンティティとしてとらえ、家庭生活と倫理規範を重視した安定した国民教育を国家が求めたからである。憲法制定当時のトルコの宗教政策の現れであるといえる。しかし、それだけではなく、憲法内で明文化されたことに大きな意義があったと私は考える。改正が難しいとされる1982年憲法で制定されることにより、もはや政党の方針や与論によって、宗教教育が現れては消えるという混乱はひとまずなくなったのである。これからは、宗教教育のやり方が政策の現れるところになるのだ。

その憲法制定から10年、国内外の事情はめまぐるしく変わった。現行憲法が制定されたときとは、国家の考え方も変わった。少なくとも1990年には、憲法を制定した軍部は「トルコ・イスラーム総合論」を支持しなくなっている。2002年始の国民教育省は、文化を守り、理性で宗教を理解するのだと発表し、敬虔なムスリムを育てることを目標とはしていない。今はまさに世俗主義国家としての宗教教育を柔軟に行うことができる環境なのである。しかし、本稿で見てきたとおり、この宗教科目は、題目のと通りの「宗教文化」ではなく「イスラーム信仰」の色が強いことがはっきりと見て取れた。これは現在のトルコの国家と国民の、イスラームに対する考え方が現れたものだといえる。

長い歴史をイスラームとともに歩んできたトルコにはイスラームが染み付いており、簡単にはイスラームをあまたあるうちの1宗教としてとらえることはできないのだろう。国民にも国家にも、まだ「私たちの宗教」は「イスラーム」なのだ。そのことを、教科書を作成する側である国家が認めているのである。信教の自由を保障する国家の側から、「宗教＝イスラーム」というアプローチをしている今のままでは、信仰は本当には自由にならない。

世俗主義を掲げてはいるものの、トルコは未だ、世俗主義とは遠いところにいるようである。

資料:教科書の目次

国民教育省で定めている単元名と見出し。

クルアーンの章の名称に関しては、井筒俊彦訳、1964、『コーラン 下』岩波書店 を参照した。

4年生

単元1:宗教と道徳について私は何を知っている？

1. 日常会話の中の宗教
 - 1.1 Bismillahirrahmanirrahim
 - 1.2 Allah' a Şükür
 - 1.3 Günah、Sevep、Haram、Helal の考え方について学ぼう
 - 1.4 願い事と祈りの宗教的表現
 - 1.5 挨拶を交わそう
2. 家の中や身の回りにある宗教シンボルについて知ろう
3. 宗教の定義を学ぼう
4. 宗教を学ぶことの重要性
5. 「宗教はすばらしい道徳である」
 - 5.1 倫理的な表現と倫理的でない表現について考えよう
 - 5.2 きれいな言葉と話そう
 - 5.3 きれいな振る舞いをしよう
6. 私たちの預言者の行動や発言は最もすばらしいお手本である
7. Sübhaneke の祈りの語句を暗記し、意味を理解しよう

単元2:清潔にしておこう

1. 体を清潔に保とう
2. 衣服を清潔に保とう
3. 身の回りを清潔に保とう
4. 健康のために清潔にしておくことはとても重要なこと
5. 私たちの宗教も、清潔にしておくことを要求している:「清潔の信仰のひとつ」
6. 言葉に責任をもって、正直で信頼されることも清潔という
7. アッラーは清潔にしている人間をお好みになる
8. 清潔であることの大切さについて話し合おう
9. クルアーンの開扉の章を暗記し、意味を理解しよう

単元3:私と宗教

1. 私は理性的で、信仰する存在だ
2. 私は人々に、愛と尊敬を感じる
3. 宗教は実直であることを求める
4. 宗教は良い、正しい、美しい行動を求める
5. 宗教は私の環境を守るようにと忠告する
6. 努力して、アッラーの助けを信じ、やり遂げる

単元4:家族と宗教

1. 私には家族がいる
2. 家族は私を信頼している
3. お父さんとお母さんは、私がいい子にしていることを望む
4. 私たちの宗教は、お父さんとお母さんに、私たちが良い振る舞いをするようにと勧めている
5. 友達と良い関係で生活しよう
6. 家族はお互いに敬意を示し、助け合おう
7. 家族はお互いを理解しあおう

単元5: 創造主と被創造物を愛そう

1. 愛することと愛されることは誰にでも必要なこと
2. 愛は、アッラーが私たちに与えてくれた恩恵である
3. アッラーは被創造物を愛する
4. すべてのものは私のように苦心して作り出された
5. アッラーは子供たちをとて愛している
6. 自分自身を好き、自分を作り出したものも好き
7. 被創造物を愛するように、アッラーを愛そう
8. 愛し愛されよう: 愛情は相互に向かい合っている
9. 作り出すことと生かすことは、愛のわざである。
10. クルアーンの「信仰ただ一筋」の章を暗記し、意味を理解しよう

単元6: 喜びと悲しみを分かち合おう

1. 分かち合いは必要なことであり、美德である
2. 喜びを分かち合おう
 - 2.1 祝日は喜びの日である
 - 2.1.1 宗教的な祭日
 - 2.1.2 国民の祭日
 - 2.2 灯明祭を祝う
 - 2.3 その他の大切な日
 - 2.3.1 金曜日はすべてのムスリムにとって大切な日である
 - 2.3.2 ラマザン月を、喜びと興奮をもって迎える
3. 悲しみも分かち合おう
 - 3.1 病人を見舞いに行く
 - 3.2 過ぎ去った日々を思い出す
 - 3.3 困っている人を助ける

単元7: 預言者ムハンマドについて学ぼう

1. 預言者ムハンマドの生まれた環境を知ろう
2. 預言者ムハンマドの家族について知ろう
3. 預言者ムハンマドの子供時代
 - 3.1 幼年期
 - 3.2 青年期
4. 預言者ムハンマドの子供時代の、美德ある振る舞いについて学ぼう
 - 4.1 預言者ムハンマドは家族の目上の人を愛し、敬意を持った
 - 4.2 預言者ムハンマドは正直で、信頼された
 - 4.3 預言者ムハンマドは努力と助け合いが好きだった
 - 4.4 預言者ムハンマドは良くない環境は避けた

- 4.5 預言者ムハンマドは不正に対し、毅然として反対した
- 4.6 預言者ムハンマドは友人とすばらしい日々を送った
- 4.7 預言者ムハンマドは自然と動物を愛した
- 5. クルアーンの「カウサル」の章を暗記し、意味を理解しよう

5年生

単元1: アッラーを信じています

- 1. すべてのものには秩序がある
- 2. 私を、家族を、すべてをお作りになったのはアッラーである
- 3. アッラーには配偶者も同類もない
- 4. アッラーはすべてを聴いて、見て、知っている
- 5. アッラーの力はすべてに行き渡る
- 6. アッラーは私たちと共にいる
- 7. 「クルアーン」と「信仰告白」を学ぼう

単元2: 祈りをささげよう

- 1. 祈りは願いである
- 2. 高貴な神は私たちに耳を貸し、願いを受け入れてくださる
- 3. 祈りによって愛と親近感が増す
- 4. どんなときでも祈りをささげることができる
 - 4.1 喜びの瞬間の祈り
 - 4.2 悲しみの瞬間の祈り
- 5. 毎日の祈り
- 6. クルアーンと私たちの預言者に見る祈りの例
- 7. Tahiyat の祈りを暗記し、意味を理解しよう

単元3: 礼拝について知ろう

- 1. 礼拝って何？
- 2. 礼拝に関連する概念を学ぼう(戒律、義務、預言者の教え)
- 3. どうして礼拝を行うんだらう
- 4. いつどんなときも礼拝は可能
- 5. モスクを知ろう
- 6. 主な礼拝
 - 6.1 1日5回の礼拝
 - 6.2 断食
 - 6.3 巡礼
 - 6.4 喜捨
- 7. すべての美しい行動は礼拝である
- 8. 正直であることも礼拝である
- 9. 礼拝は私たちの行動を美しくする
- 10. 創造主への祈りを暗記し、意味を理解しよう

単元4: ラマザン月と断食

- 1. ラマザン月の重要性

- 1.1 クルアーンはラマザン月に降りてきた
- 1.2 ラマザンは断食の月である
2. 断食って何？
3. ラマザン月と断食に関連する概念
 - 3.1 Sahur、İmsak、İftar
 - 3.2 断食明けの祈りと意味
 - 3.3 報い
 - 3.4 ラマザンの夜の祈り
4. 断食をするとき、何に注意しますか？
5. 断食明けの様子
6. 断食の礼拝が人へ、社会へもたらすもの
 - 6.1 断食で意思が強くなる
 - 6.2 断食で振る舞いが美しくなる
 - 6.3 断食は社会に助け合いと団結を増やす
7. ラマザン月があげたらお祝いをする

単元5: 社会的な責任と宗教

1. 身近な人を愛し、尊敬し、助ける
2. 友達とのつきあい
 - 2.1 友達には敬意を持って、誠実に振る舞う
 - 2.2 友達の考えに辛抱強く耳を傾ける
 - 2.3 友達と分け合うことが好き
3. 公的な場所は他の人も使うということを知る
 - 3.1 学校をきれいにして秩序を保つ
 - 3.2 モスクの秩序と清潔を保つ
 - 3.3 すべての人に開かれた場所を清潔に保つ
4. 社会生活の規則に順応する
 - 4.1 社会生活においては、自分の要求を丁寧な表現で明らかにする
 - 4.2 目上の人には敬意を持って接する
 - 4.3 目下の人には良い手本となり、守ってあげる
 - 4.4 必要なときには謝罪をすることを知ら
 - 4.5 交通規則を守り、他人の権利を無視しない
5. 隣人付き合い
 - 5.1 身の回りの、他の家族や人々の存在を忘れない
 - 5.2 必要なときは隣人を助ける
6. 貧しくて弱い人たちに目を向け、彼らを助ける
7. 障害を持つ人には暖かい目を向け、困難を分かち合う
8. クルアーンの「日差し傾く頃」の章を暗記し、意味を理解しよう

単元6: 預言者たちを知ろう

1. アッラーからのメッセージを、預言者は人々へ仲介して送る
2. 預言者たちへ送られたものは、アッラーの人間への助けである
3. 預言者たちへ送られたメッセージは同じ目標へ向かう
4. 預言者が人間のなかから選ばれる理由
5. 預言者の性質
 - 5.1 正しいこと

- 5.2 信頼されること
- 5.3 分別があり賢いこと
- 5.4 アッラーから受け取ったメッセージを人々に知らせること
- 6. クルアーンに名を連ねる預言者たち

単元7: 預言者ムハンマドと家族の生活

- 1. 預言者ムハンマドの、家族での手本となる振る舞い
 - 1.1 預言者ムハンマドは家族の一人一人をとっても愛した
 - 1.2 預言者ムハンマドは家の仕事を手伝った
 - 1.3 預言者ムハンマドは家族の一人一人と冗談を言い合った
 - 1.4 預言者ムハンマドは家族の間で差別をしなかった
 - 1.5 預言者ムハンマドは家族一人一人の考え方に重きを置いた
 - 1.6 預言者ムハンマドは親戚を訪問した
- 2. 預言者ムハンマドの家族の良い特徴
 - 2.1 預言者ムハンマドの家族は喜びと困難を分かち合った
 - 2.2 預言者ムハンマドの家族は客人に気前のいい振る舞いをした
 - 2.3 預言者ムハンマドの家族は浪費をしなかった
 - 2.4 預言者ムハンマドの家族は互いに相談しあった
 - 2.5 預言者ムハンマドの家族は隣人付き合いを大切にした
 - 2.6 預言者ムハンマドの家族は孤児と貧しい人を気にかけた
- 3. 祈禱の文句を暗記し、意味を理解しよう

6年生

単元1: 日に五回の礼拝は、信仰のひとつである

- 1. 礼拝って何？何のためにするの？
- 2. 礼拝が人々にもたらしたもの
 - 2.1 礼拝は人間の感情世界を豊かにする
 - 2.2 礼拝は人々の振る舞いを意識的なものにする
 - 2.3 礼拝は共に生きることや団結の意識を開発させる
 - 2.4 礼拝は清潔な状態にさせる
 - 2.5 礼拝の時間を良い時間にすることを学ぶ
- 3. 礼拝に必要なこと
 - 3.1 礼拝準備に必要なこと
 - 3.1.1 清め、身体の清め、略式の砂による清め
 - 3.1.2 その他の準備
 - 3.2 礼拝を行うのに必要なこと
- 4. 礼拝の呼びかけ: エザーン
- 5. 礼拝
- 6. 礼拝が破られるとき
- 7. 導師にならって礼拝する
- 8. 旅路で礼拝する
- 9. 礼拝の種類
 - 9.1 日々の礼拝(5回の礼拝)
 - 9.2 金曜礼拝

9.3 ラマザンの夜の礼拝

9.4 祝日の礼拝

9.5 葬式での礼拝

10. クルアーンの「象」の章を暗記し、意味を理解しよう

単元2: 分かち合おう助け合おう 喜捨と施し

1. 人々は分かち合いと助け合いが必要
2. イスラームの分かち合いと助け合いの重要性
3. 分かち合いと助け合いの信仰としての喜捨
4. 喜捨は誰が与えるの？
5. 喜捨は誰に、どうやって与えるの？
6. 喜捨は何によって与えられるの？
7. 助け合いと団結の手段としての施し
8. 喜捨と施しが行えるようになるよう、努力しよう
9. 助け合いの協会

単元3: 私たちの祖国と民族を愛しています

1. 祖国と民族の概念を知ろう
2. 私たちは祖国と民族をとっても愛している
3. この祖国では全員がひとつの民族だ
4. 精神的な価値を守って、敬意を示す
 - 4.1 私たちの国旗と国家に敬意を払おう
 - 4.2 凱旋将軍に敬意を示し、殉教者に神の恩恵を願う
 - 4.3 兵役に参加することは祖国の義務だ
5. 「祖国に平和を、世界に平和を」が私たちの基本理念だ

単元4: 悪い行いに気をつける

1. 私たちの宗教が気をつけさせる悪い行い
 - 1.1 嘘をつく、詐欺をはたらく
 - 1.2 中傷
 - 1.3 盗み
 - 1.4 嫉妬
 - 1.5 からかい
 - 1.6 うぬぼれ
 - 1.7 疑い
 - 1.8 他人の私生活を詮索すること
 - 1.9 母親、父親や目上の人に敬意を持たないこと
2. 私たちの宗教が気をつけさせる悪い習慣
 - 2.1 アルコールを飲むこと
 - 2.2 麻薬を使うこと
 - 2.3 賭け事をする事
3. 悪い習慣はどのように始まった？
4. 悪い習慣や行いから、どのように自分を守ったらいいのか
5. 悪い行いに反対することには無意識であってはいけない
6. 他人に害を与えることは人権侵害だ
7. クルアーンの「黎明」の章を暗記し、意味を理解しよう

単元5: 友情と兄弟関係

1. 友情と兄弟関係は必要なものだ
2. 友情と兄弟関係は基本的な愛情だ
3. 私の宗教は、友情を持って、兄弟を大切に生きろと忠告している
4. 友情と兄弟関係は平和の基本である
5. イスラームは、愛と平和の宗教だ
6. 愛することを成し遂げなくてはならず、愛されるに値する人間にならなくてはならない
7. クルアーンの「助け」の章を暗記し、意味を理解しよう

単元6: 神聖な書物を知ろう

1. 神聖な書物って何だろう
2. アッラーはなぜ啓示を与えたのか
3. 4大聖典
 - 3.1 旧約聖書
 - 3.2 詩篇
 - 3.3 新約聖書
 - 3.4 クルアーン
4. 神聖な書物への信仰も、信仰のひとつだ
5. 私たちの宗教的生活における、クルアーン的位置と重要性
 - 5.1 私たちの宗教について学ぶために、神聖な書物をあたってみよう
 - 5.2 行動するときには、神聖な書物の助言を考えに入れよう
6. 神聖な書物からの忠告

単元7: 最後の預言者ムハンマド

1. イスラームが生まれた状況
2. 預言者ムハンマドの呼びかけ: メッカ期
 - 2.1 最初の啓示: 創造主の御名において、読め!
 - 2.2 近しい者への呼びかけ
 - 2.3 呼びかけを広げる
 - 2.4 ヒジュラ
3. 預言者ムハンマドの呼びかけ: メディナ期
 - 3.1 私たちの預言者の小寺と社会機能
 - 3.2 積極的教育活動
 - 3.3 社会的平和の構築
 - 3.4 最後の説教と預言者ムハンマドの死
4. クルアーンにおける預言者ムハンマド
 - 4.1 預言者ムハンマドの人間的側面
 - 4.2 預言者ムハンマドの預言者としての側面

7年生

単元1: クルアーンを知ろう

1. 最後の神聖な書物クルアーン
2. クルアーンの啓示の降りる過程

3. クルアーンの中の秩序

4. クルアーンから何が発見できる？

- 4.1 クルアーンは、神と人間の関係について道を示している
- 4.2 クルアーンは、人間同士の関係について道を示している
- 4.3 クルアーンは、人間と万物の関係について道を示している
- 4.4 クルアーンは、アッラーと万物の関係について道を示している

5. クルアーンの基本的な教育的性質

- 5.1 クルアーンは、良く、すばらしい方へと導く
- 5.2 クルアーンは、明らかにし、明るくする
- 5.3 クルアーンは、忠告を与え、思い出させる
- 5.4 クルアーンは、私たちが生活に意味を与えることの助けになる

単元2: 宗教はすばらしい道徳だ

1. 信心深くあることは、道徳的であることを必要とする

2. 宗教は、道徳的になるために何をもたらすか

- 2.1 私の宗教は私に、信頼される人間になることを求める
 - 2.1.1 自分の義務を果す
 - 2.1.2 言葉に責任を持つ
 - 2.1.3 信頼を裏切らない
 - 2.1.4 悪いことに近付かない
 - 2.1.5 あらゆることにおいて、正しいことから離れない
 - 2.1.6 人の悪口を言わない
 - 2.1.7 嫉妬、嘘、中傷はしない
 - 2.1.8 人を軽蔑しない
- 2.2 私の宗教は、自分を進歩させる人間になることを求める
 - 2.2.1 アッラーは、怒りを抑えることを求める
 - 2.2.2 アッラーは、過ちから帰ることを望む者には、真実を示す
 - 2.2.3 困難にも立ち向かうことを知る
 - 2.2.4 自分の行いの中で、正しい知識へと達する
 - 2.2.5 礼儀作法にふさわしくある
 - 2.2.6 無駄遣いをしない

3. クルアーンの「慈善」の章を暗記し、意味を理解しよう

単元3: ハッジと生け贄

1. ハッジ

- 1.1 ハッジって何？何のためにするの？
- 1.2 ハッジは誰に必要か？
- 1.3 ハッジと関わりある概念 (ihram、Tavaf、Sa'y、Vakfe)
- 1.4 ハッジと関わりある場所
 - 1.4.1 カーバ
 - 1.4.2 サファとメルウェ
 - 1.4.3 アラファト山
 - 1.4.4 ミズデリフェとミナ
- 1.5 ハッジはどのように行われるか
- 1.6 ハッジ以外のメッカ巡礼
- 1.7 メディナと預言者のモスクの旅

1.8 ハッジの人々の振る舞いに出る影響

2. 生け贄の礼拝

- 2.1 宗教における犠牲祭
- 2.2 預言者イブラーヒームと生け贄
- 2.3 生け贄はどのように殺されるか
- 2.4 生け贄は、アッラーに近付くためのひとつの手段だ
- 2.5 生け贄は、人々の連帯をもたらす

单元4: 天使と、その他の目に見えない存在

1. 存在の世界

2. 天使

- 2.1 天使の特徴と任務
- 2.2 天使は良いものや美しいもののシンボルだ
- 2.3 天使を信じることは、信仰のひとつの条件だ
- 2.4 天使を信じることは、振る舞いを美しくする助けとなる

3. ジン

- 3.1 神聖な書物に見るジン
- 3.2 ジンと関わりある迷信的信仰
 - 3.2.1 ネクロマンシー
 - 3.2.2 占い
 - 3.2.3 魔術とまじない

4. 悪魔

- 4.1 悪魔は悪いことのシンボルだ
- 4.2 悪魔の悪行から身を守るための、クルアーンの助言
- 4.3 サタニズム: 悪魔崇拜

5. クルアーンの「人間」の章を暗記し、意味を理解しよう

单元5: 終末信仰

1. 人間の、不死の望みと終末信仰

2. 最後の審判と復活

3. 人間は、それまでの行いの見返りを受けるだろう

- 3.1 アッラーは良い行いをした者には褒美を与える
- 3.2 アッラーは悪い行いをした者には報いを与える
- 3.3 アッラーは公正で慈悲深く、寛容である

4. 終末の日へ向けて、信仰の役に立つことを行わなくてはならない

5. Kunut の祈りの語句を暗記し、意味を理解しよう

单元6: 家族

1. 家族は社会の基礎だ

2. 家族関係は、愛、敬意、助け合いで構成される

3. 家族内で、個人は互いに対する責任を負う

4. 家族内の責任を明らかにしよう

5. 子供を育てる責任と家族計画

6. 家族内の問題を、相互理解によって解決する

单元7: 宗教を知ろう

1. 宗教は普遍的な現実性だ
2. どうしてたくさんの宗教があるのか
3. 大きな宗教について知ろう
 - 3.1 ユダヤ教
 - 3.2 キリスト教
 - 3.3 イスラーム
 - 3.4 ヒンドゥー教と仏教
4. 魂の移動
5. クリスマスと新年
6. 宣教
7. 他の信仰を持つ人に敬意を示そう

8年生

単元1: 預言者ムハンマドの模範的な道徳

1. 預言者ムハンマドはすばらしい道徳の模範として送られた
2. 預言者ムハンマドの模範的な道徳
 - 2.1 預言者ムハンマドは信頼される人物であった
 - 2.2 預言者ムハンマドは哀れみ深かった
 - 2.3 預言者ムハンマドは人々を大切にした
 - 2.4 預言者ムハンマドは勇敢だった
 - 2.5 預言者ムハンマドは権利を守った
 - 2.6 預言者ムハンマドは忍耐強かった
 - 2.7 預言者ムハンマドは言葉に責任を持った
 - 2.8 預言者ムハンマドは寛容だった
 - 2.9 預言者ムハンマドは時間に高い価値をおいた
 - 2.10 預言者ムハンマドは人々と相談してものごとを行った

単元2: 私たちの文化と宗教

1. 文化と、文化の要素
2. 文化と不可分なものとしての宗教
3. 宗教の、文化への影響
 - 3.1 言葉の中の宗教的モチーフ
 - 3.2 文学の中の宗教的モチーフ
 - 3.3 習慣と風習の中の宗教的モチーフ
 - 3.4 音楽の中の宗教的モチーフ
 - 3.5 建築の中の宗教的モチーフ
4. 文化理解における、正しい宗教理解の役割
5. 宗教的狂信の害
6. Ayetel Kürsi を暗記し、意味を理解しよう

単元3: 宗教、知性と学問

1. 人間とは考える生き物だ
2. 知性は、宗教的義務の前提だ
3. 宗教は人々の頭と心に話し掛ける

4. クルアーンは私たちに知性を使うことを求める
5. 知性なくして学問なし
6. 宗教と学問は、人間の意味を明らかにする
7. 宗教と学問は人間を自由にする
8. 無知は人まねと偏屈を生む
9. イスラームは学問を激励する

単元4: 運命信仰

1. アッラーは万物をひとつの寸法で作り出した
2. 万物の法則
 - 2.1 肉体的法則
 - 2.2 生物学的法則
 - 2.3 社会的法則
3. 人間の運命
4. 人には、自身の働きに対する答えがある
5. 万物には終わりがある
6. 人は自由と同じだけの責任を持つ

単元5: 信仰と行動の関係

1. 信仰とは何か
2. 良い行いとは何か
3. 信仰と行動の関係
4. 信仰ある人にふさわしい行い
 - 4.1 正直であること
 - 4.2 労働と生産
 - 4.3 人を助けること
 - 4.4 アッラーに感謝をすること
 - 4.5 忍耐強くあること
 - 4.6 アッラーを信頼すること

単元6: 宗教理解と差異

1. 宗教と宗教理解はそれぞれに違う
2. 宗教理解の差異は豊かなことだ
3. 宗教理解の差異の原因
 - 3.1 人の作り
 - 3.2 政治
 - 3.3 環境と文化
 - 3.4 経済
4. 宗教理解の差異によって成立したもの
 - 4.1 宗派
 - 4.2 教団
 - 4.3 信徒
5. 宗教に強制はない
6. 政教分離は、宗教と良心の自由の保障だ

単元7: 宗教とイスラームの普遍的助言

1. 正しいこと
2. 清潔
3. 良いことと博愛
4. 目上の人に敬意を払い、目下の人を愛情を持って見る
5. 動物を大切にする
6. 環境を守る
7. 有害な習慣を避ける
8. 他人に害を与えない
 - 8.1 殺さない
 - 8.2 盗まない
 - 8.3 嘘の証言をしない

参考文献

Özden, Ahmet Ülkü, Yılmaz, Ömer, 2002, *İlköğretim Din Kültürü ve Ahlâk Bilgisi 4-8 ders kitabı*, Ankara, Hitit Yayınevi.

Aydın, Muhammet Şevki, 2000, *Cumhuriyet Döneminde Din Eğitimi Öğretmeni Yetiştirme ve İstihdamı(1923-1998)*, Ankara, T.D.V.Yayın Matbaacılık ve Ticaret İşletmesi.

Komisyon, 2002, *İlköğretim Din Kültürü ve Ahlâk Bilgisi 4-8*, İstanbul, Milli Eğitim Basımevi.

新井政美、2001、『トルコ近現代史』みすず書房。

井筒俊彦訳、1964、『コーラン(下)』岩波文庫。

ウェブサイト

www.meb.gov.tr

www.minpaku.ac.jp/htdocs2/jcas/islam_studies/1999/01_06.html

www.jetro.org.tr/japan/1/1.htm